くまもと

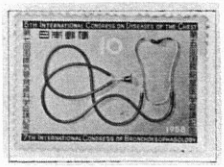
376号

日本郵趣協会
熊本支部会報
2023.4

そこにあるべきもの

山本純雄

国際医学会議記念
1958. 9. 7.
グラビア，目打：櫛型13½



聴診器

国際社会事業会議記念
1958. 11. 23.
グラビア，目打：櫛型13

世界人権宣言調印10年記念
1958. 12. 10.
グラビア，目打：櫛型13

人権をあらわす赤い炎

慶応義塾創立100年記念
1958. 11. 8.
凹版，目打：櫛型13½

大学と福沢諭吉

児島湾締切堤防竣工記念
1959. 2. 1.
グラビア，目打：櫛型12½

地図とトラクター

アジア文化会議記念
1959. 3. 27.
グラビア，目打：櫛型13½

アジア地図

そこにあるべきもの

山本純雄

切手収集のきっかけは、人それぞれであろう。
収集家に勧められたこと、友人や知人と切手に興味を持ち共通の趣味として始めたこと、骨董収集の一環として切手に関心を持ったこと、そして、私のように切手収集には興味の無かった父から外国切手数十枚を貰ったことが、始まりだったこと、などなど。

私は、切手収集を長年にわたって続けているが、ただ色々な機会に手にした切手を、これといった収集の目標もなく収納している。

しかし、保管だけでは切手のありかが、にわかに判り難く、またどの様な切手であるかを知っておくために、カタログを参考に分類しているに過ぎない。切手1枚1枚の来歴や、その性格、切手市場における評価などに迫ろうとする意志は余りない。勿論、分類の過程で色々と知ることもあるが、突き詰めて研究するといったことは、考えていない。

そんな収集がよく続いたものである。仕事が忙しく切手にかまっていられない時期、切手に対する愛着が色褪せた時期や他の趣味に気をとられ、切手にまで手が回らなかった時期もあったが、そんな中でもその都度入手切手は手放すことなく保管してきた。単に手元に置いておくだけで満足という単純なことが、これまで収集を続けてきた原動力だったのかもしれない。それの、何が面白いのか。

先日、妻が怪我をした。アキレス腱の部分断裂である。治療用装具をつけた。
自然治癒を待つ間、負傷したアキレス腱を保護するために、かかと側を高くするためのものである。片方を高くすると、両足の高低差を防ぐための靴が必要だが、すると自然と身長が伸びた状態になる。私と妻の間には10数センチの身長差があり、長年その差が自然であった。ところが、その差に変化が起こった。妻の背丈が数センチ高くなったのである。

身長差が崩れるということは、どういうことか、それは何とも言えない違和感があり、ふと気が付くと別の女性がいるような気分になる。そこにあるべきものが無いという感覚である。

この事は、私にひとつの大事なことを気づかせてくれた。切手のことである。
何の意識もしていなかったが、これまで事あるごとに1枚の切手を眺めていたように思う。

それは、「世界人権宣言 10 周年記念」1958 年 12 月 10 日発行の記念切手額面10円である。

図案は、「人権を表す赤い炎」原画は、久野実である。紺地の中央に炎、その周りに炎の照らす光が描かれている。この切手、図案は単純であるが、その色やデザインが落ち着きと、希望をもたらしてくれる。

まだ高校生の頃、仲のよかった友人から譲り受けたものである。

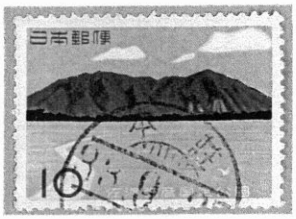
この切手、どんな時とは一概に言えないが考えてみると事あるごとに眺め、その都度見入っていたように思う。どこか心惹かれるのである。

他の切手と一緒にストックブックに収まっているが、私にとってはあるべきものが、あるべきところにある意味をもってあるのである。そして、それは傷が入っているが、友人から貰ったこの切手でなくてはならない。小さな切手であるが大きな存在感がある。

あるべきもの-1枚の切手-がそこにある。切手収集の醍醐味はそこにあるのではないだろうか。

「世界人権宣言」については、内藤陽介著　解説・戦後記念切手II　ビードロ・写楽の時代の本のなかで詳しく解説されています。一部分紹介しますと・・・

1954 年に採択された国連憲章の前文に、世界平和を維持するために人権を尊重すると定めがありますが、具体的な内容の規定が無かったため 1946 年より国連にて実務作業が進められ、1948 年「世界人権宣言」が採択されました。

1958 年は、採択され 10 周年を迎え、周知宣伝と基本的人権の保護を伸張させるための記念事業行い、加盟国が記念切手を発行したものです。

同じ 1958 年には、こんな記念切手が発行されています。